

Report

第111回品質管理シンポジウム データ駆動型社会における 顧客価値創造と組織能力(品質保証)向上

去る、2021年6月3日(木)～5日(土)、第111回品質管理シンポジウム(以下、111QCS)を開催いたしました。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大、一部地域への緊急事態宣言が発出されている状況を鑑み、シンポジウム55年の歴史の中で初めての完全オンラインとして日科技連・東高円寺ビルから配信・実施し、約190名の方々にご参加いただきました。

QCSは、1965年に日科技連が品質管理の今後の発展を希求して始めたもので、組織的・計画的な総合研究の場として、年2回開催されています。

111QCSは、電気通信大学名誉教授 鈴木和幸氏が担当組織委員を務め、「データ駆動型社会における顧客価値創造と組織能力(品質保証)向上」をテーマに開催しました。これは、2019年12月の109QCSの参加者の総意として発出した「令和大磯宣言」の内容を議論を通じて深化することも意図していました。

本シンポジウムでは、“データ駆動型社会”を“顧客・社会のニーズから企画・開発・生産・営業・サービスそして顧客・社会満足度までの一貫した必要かつ十分なデータの収集・蓄積・分析・活用による顧客価値創造が為されていく社会”と定義し、データ駆動型社会の中で、如何に品質経営を加速させていくのか、そのために必要となる倫理・道徳・ESG(環境・社会・ガバナンス)・SDGs(持続可能な開発目標)を基盤とするモノ・コトづくりへの理念、経営トップのリーダーシップ、全部門全構成員の主体的参画、サプライチェーン全体での品質保証、情報プラットフォーム(標準基盤)化、一企業を越えた人財育成などについて議論しました。

基調講演では、鈴木担当組織委員から“新常态とデータ駆動型社会における顧客価値創造と未然防止”をテーマに、新常态下でのデータ駆動型社会へ向けて、AI・ビッグデータ・IoT・DXを駆使し、モノづくり・コトづくりの変革、効果的なデータの収集・蓄積・分

111QCS 講演内容

月日	講演者
6/3 (木)	<p>■特別講演</p> <p>「5G / Beyond 5G 時代における新たな価値創造へのデジタル経営」 東京大学大学院工学系研究科 教授 森川 博之 氏</p>
6/4 (金)	<p>■基調講演</p> <p>「新常态とデータ駆動型社会における顧客価値創造と未然防止」 電気通信大学名誉教授、特任教授 鈴木 和幸 氏</p> <p>■講演1</p> <p>「素材起点の『共創』による社会価値創造」 東レ株式会社 代表取締役 副社長執行役員 出口 雄吉 氏</p> <p>■講演2</p> <p>「クルマの進化とこれからのモビリティ社会」 トヨタ自動車株式会社 執行役員 山本 圭司 氏</p> <p>■講演3</p> <p>「Together with “MONOZUKURI” の加速へ」 NECプラットフォームズ株式会社 取締役 執行役員専務 大嶽 充弘 氏</p> <p>■講演4</p> <p>「データ駆動型時代のヒト・コトづくり」 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長 椿 広計 氏</p>

析・活用、品質保証における三確(確保・確認・確証)、ならびに信頼と安心を与える未然防止のポイントをコロナ関連データの分析とともにご紹介をいただき、以降の講演、GD、総合討論へつながりました。

次回は、2021年12月2日(木)～4日(土)の日程で、大磯プリンスホテル(神奈川県大磯町)にて、「新しい社会をつくる 新たな顧客価値創造への変革-人の暮らしの質向上への挑戦-」をテーマに開催します。

皆様と大磯でお会いできることを楽しみにしております。
[報告：池田 晃(日科技連)]